



保育の魅力

熊本県合志市保育士会



保育士5年

子ども達と一緒に何か一つの目標に向かって取り組んだり、頑張れる時間はとても楽しく、幸せに感じます。

子ども達と一緒に様々な経験ができ、沢山の子ども達と出会えるこの仕事に魅力を感じています。



保育士7年目

保育士として働いている中で、子どもと信頼関係が結べていると感じた時又、できなかったことができるようになった瞬間に立ち会えた時に幸せをだと感じます。

子ども達が困った時に一緒に考え、援助し、時間をかけて挑戦した後の「できた！」の達成感たっぷりの表情に「保育士をやっていてよかった」と感じます。



保育士9年

保育士をしていて1番嬉しい瞬間は、子どもたちの笑顔が見られたときです。

日中のほとんどの時間を保育園で過ごす子どもたちにとって、家族の次に安心できる特別な存在になれたらと思い、常に家族のような気持ちで接しています。

そんな子どもたちから「先生大好き！」と言ってもらえたり、笑顔で「先生～！」と駆け寄ってくれたときに、一番幸せを感じます。

保護者と離れる際に泣いて嫌がっていた子どもたちからの笑顔が見られたり、頼られ必要とされることもやりがいの一つです。

また、子どもは数えきれないほどの成長を見せてくれます。

昨日出来なかったことが出来るようになったり、友だちとのトラブルが耐えなかった子が、ある時友だちに優しくしていたりする瞬間に立ち会えたり、1年を通して日々の成長が見られるこの仕事は本当に素晴らしいと思います。

そんな日々の成長していく姿をご両親と共感し、一緒になって喜ぶことができることも、保育士をやっていて良かったと思える瞬間です。

子どもたちのたくさんの笑顔が見られるよう、これからも努力していきたいと思います。

保育士9年

保育士として働く中で幸せだと感じる事は子ども達に、「先生だいすき！」と言われることです。

保育士2年目の時に担任をした子どもなかなか心を通わせることができず、「先生すかん！」と言われ悩んだことがありました。その子と打ち解けるまでに半年かかりました。

いろんな方法でその子と関わり「先生大好き」とハグをしに来てきれるようになった時にはとても嬉しく、保育士になってよかったと感じました。



保育士11年

年長クラスの女の子が、ふと『ちゅうりっぷぐみ（0歳児クラス）の時、先生がミルク飲ませてくれたもんね〜』と話しかけてくれた。抱っこしていた様子やまだ小さかったこと等、その頃の話をする少し恥ずかしそうに聞いていた。

その子が入園したのは、生後4か月になってすぐの頃。もちろん本人は当時のことは覚えていないはずなので、家庭で母親から話を聞いているのだと思った。その時、保護者の方と一緒に子どもの成長を見守ることが出来ている嬉しさを感じた。

保育士12年

初めて障がいのある子を担任しました。0歳児の頃は名前を呼んでも、声を掛けても反応がなくそのまま1歳児に。

持ち上がりで担任になり、毎日毎日たくさん声を掛け、名前を呼び関わってきました。

ある日、ふと視線を感じるとその子がじっと見つめていたので名前を呼ぶと初めて反応がありました。やっと気持ちが通じたと、保育士になってよかった！と嬉しかったのを覚えています。

保育士として認めてもらえたのかなと感じた瞬間でした。

保育士13年

0歳児、3歳児、5歳児の時に担任をした子ども達が卒園し6年が経ち、今年小学校を卒業しました。

卒業式の日にはみんな保育園に集まり、卒業証書を見せにきてくれました。

あの頃は自分に余裕がなく、慌ただしく毎日が過ぎていたように感じますが、保育園を卒園し6年も経った今でも、「先生～ただいま～！！」と保育園に遊びに来て「保育園楽しかったな～」とあの頃の思い出を子ども達と一緒に話している瞬間、保育士をされていてよかったなと幸せに感じます。

保育士13年

保育園での子どもたちには、様々なトラブルがつきもの。物を取り合ったり、言い合いをしたり、なかなか自分の思いを言い表せずに手が出てしまったりは日常的にある。

もしかしたら、子どもたちは泣いたり怒ったりしていることの方が多いかもしれないが、ふとした時に見せる嘘偽りない笑顔を見た瞬間に幸せを感じる。保育士にとって、子どもたちの笑顔は子どもの様子を知るために大切なものですが、自分だけに見せてくれるこの笑顔は保育士をやっていて心から癒される瞬間であり、つらい時も悲しい時も、この笑顔をがあるからこそ続けていけると思っている。



保育士13年

保育園には、様々な行事がある。例えば運動会では、年齢に応じた競技やパフォーマンスを子どもたちが楽しく、のびのびと出来るように何か月も前から考え、準備をしたりしなければいけない。

しかし運動会当日の子どもたちの楽しそうな顔やいきいきした姿、自信に満ち溢れた動きや、保護者からあがるどよめきや歓声を耳にしたときに、疲れが吹き飛んで“保育士をしていて良かった”と感じる。行事などは、計画や準備が大変で苦勞も多いが、その分だけ感動や喜びも一層高まる。

保育士13年

幸せを感じる時は、子どもの成長を感じた時や、行事を通しての達成感等、様々ある。私は特に普段の園生活の中で「先生」と呼んで駆け寄ってくれたり、笑顔を見たときに幸せを感じる。保育をする上で試行錯誤の連続ですが、子どもの無邪気な笑顔や全力で遊びを楽しむ姿を見ると、私も“頑張ろう”と思い、元気の源となる。



保育士16年

子どもの言い間違いに笑った時。

私の間違いを子どもに指摘された時。

「ねえ 先生」と何気なく話しかけてくれる時。

言葉がなくとも気持ちを分かり合えた時。

いつもと変わらない日常。

繰り返される日常の中に子ども達の成長があり、かけがえのない子ども達と過ごす日々こそが私の保育士としてのやりがいだと感じます。あたりまえの日常を子ども達と一緒に過ごすことができる幸せを大切にしていきたいです。



保育士22年目

保育士を続けていると、色々な所で声を掛けられることがあります。一緒にいる成長した子ども達は恥ずかしがってなかなか話してくれないことの方が多いですが、保護者は「先生！」「お久しぶりです！」と明るく話し始めてくれます。

保育園時代のことや近況を聞き、隣りではにかんでいる子どもの成長を感じると共に保護者の変わらない笑顔に安心する私。保育園を卒園すると、なかなか会う機会がないのが現状です。

しかし、会えば以前のように繋がりを感じられるし、何より「声を掛けてもらえる」ことに喜びを感じます。卒園してからの繋がりを密にすることはなかなか難しいことだけれども、これからも目の前にいる子ども達と接しながら、卒園した子ども達の成長に思いを馳せ、声を掛けてもらえる保育士でありたいと心から思います。

保育士25年

保育士として幸せだと思ったことは、何よりも子どもの「出来る」ようになった事を一緒に喜べる瞬間です。

日々成長する子ども達と過ごす中で私自身も様々な発見をすることができ、子どもの笑顔にパワーをもらい、他の仕事では味わうことのできない充実した毎日を過ごせることで長く保育士として働くことが出来ていると感謝しています。



保育士32年

ある日、一枚のハガキが届きました。14年前に卒園した女性からです。二十歳の成人式を迎え、当時のクラスメートと同窓会を開くため、出席してほしいとのことでした。その同窓会から更に10年が過ぎ、卒園児たちは30歳。今でも、結婚、出産の知らせが年賀状を通じて送られてきます。

また、保育士になって、最初の担任は4歳児。保育士になって32年の時が経ちました。4歳だった彼らは、36・37歳です。ある時は、地域の広報誌に。ある時は、新聞のコメント欄に。皆の活躍する姿や生活の様子をみることがあります。その頃の思い出がよみがえり、当時を懐かしく感じます。そして何より、私自身の年齢と老いを改めて感じる時でもあります。60歳の退職まで、あと数年……。保育に魅力を感じてここまで続いているのです。

保育士34年目

若い時の保育を思い出して、時々反省することがあります。若さ故に思いきりも良かったのですが、子どもをしっかりと包み込み受け入れていただろうかと、現在保育歴30年を超して、そう思うのです。ある時卒園児が遊びに来てくれました。そして「先生、わたしも先生のような保育士になるのが夢です」と話してくれました。

自分の過去に対して自信がなかった私は涙が出そうな程驚き、嬉しく感謝でいっぱいになりました。「よし、これからも精一杯頑張る！！」と底力が湧いてきました。これまで幾度となく壁にぶつかり、もう辞めてしまおうと思ったこともありますが、続けてきたからこそ感じられる喜び、人とのつながり、そしていつの間にか子どもたちを包み込んでみたくなっている自分（年もあるのでしょうか）、保育の魅力はたくさんの人を幸せに包み込む力だと感じます。

保育士40年

3月のある日、男の子2人が高校入学の合否を報告に来てくれました。一人は合格、一人は不合格でした。この子達を年長で担任をしていました。その時は、行事に追われ子ども達一人、一人の為にきちんとした保育をしていたとは言えなかったと思います。

しかし、卒園して9年の月日が流れても「保育園でお世話になったから今日の自分がある」と言い、報告しに来てくれた時は本当に嬉しく、幸せなひと時でした。

